

銚子七中
学校だより

坂東太郎

令和元年6月3日
第 15 号

COUNT DOWN 開校まであと 667日

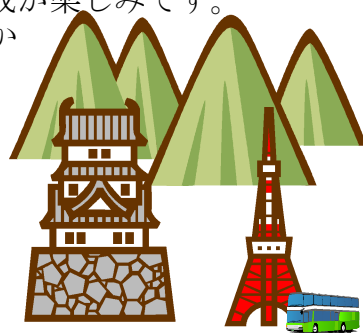
校長閑話

修学旅行・東京校外学習終える



校舎1・2階の廊下には、キラキラとした笑顔満載の写真が各学年の教室前に掲示されています。先月、10連休明けの8日（水）～10日（金）の2泊3日で3学年が栃木県日光方面と福島県会津方面へ修学旅行へ、そして1, 2年生は16日（木）に東京方面へ校外学習へ行ってきました。修学旅行での3日間は天候に恵まれ、計画をしていたすべての活動が無事終了することができました。日光東照宮への見学、大内宿散策、会津若松市内班別自由行動、自然体験活動、野口英世記念館見学と盛り沢山でどの場においても、良き思い出作りができたようです。この後は事後学習としてホワイトブックの作成に入ります。完成が楽しみです。

また、1, 2年生は今年度、新国立劇場の見学をしました。きっかけは、例年秋に新国立劇場舞台美術センター資料館（豊里台1丁目）にて、本校の生徒がオペラ鑑賞会に招待されていることからです。案内されたオペラホールは誰もが溜息が漏れるほどの荘厳な雰囲気、劇場案内役の山崎さんからは舞台袖、舞台装置、オーケストラピット等の詳しい説明をしていただきました。演劇の世界に興味関心が一層高まったようです。いつの日か本校生徒の中からオペラ歌手や演奏者またバレエ演舞者が輩出されることを願っています。



5月を振り返って

10連休を終えてすぐに、修学旅行や東京校外学習の実施。忙しくあっという間に5月が終えた気がします。さて、東京校外学習では上野公園を訪ねましたが、国立科学博物館前には野口英世博士の銅像があるのをご存知でしょうか？案外見落としがちですが、公園案内地図には必ず明記されています。今年度の修学旅行から、猪苗代町にある野口英世記念館を見学コースとして取り入れたことから、1・2年生には来年の修学旅行に向けて必ず銅像の位置は確認し、見てくるようにと伝えました。

その野口英世博士は銚子にも縁のある方であることを、記念館の受付の方から頂いた資料で知ることができました。大正4年（1915年）、干潟地区（現在の旭市）へアメリカより一時帰国していた野口博士は、県庁の役人や数名の医師と共に当時流行していた疫病の視察に訪れていたそうです。その日は東京へ戻らず、銚子の旅館に宿泊し魚料理を堪能したということでした。海を眺めていた野口博士は同行の医師に「銚子は日本の最東端です。」と説明を受けた際に、「では、ここがアメリカへは最も近い場所ですね。」と話されたということです。アメリカでの暮らしが中心の野口博士にとっては、早く帰りたいという思いがあったのではと推測される一言だったそうです。今回の修学旅行ではちょっとしたサプライズとして野口英世博士と銚子との縁を知り、福島県との繋がりを一層強く感じるすることができました。

**福島 銚子**

インドはい〜んど！？ ⑨

インドは今が最も暑い時期です。5月・6月はファーストサマー（セカンドサマーは10月・11月）と呼ばれ、外気温も35度以上（最高55度）の日が連続することがあります。さて、この時期、日本人学校は日本より一足先に夏休み（5月15日～6月30日）に入ります。この間は、一時帰国する方や避暑に海外へ出かける方など様々でした。私は学校当番（日直）があり、インド国内で過ごすことが多く、暑さを凌ぐためにホテルのプールでよく泳ぎました。お蔭でよい健康管理ができたと思います。

